

「まいひめ」の収量別生育指標(阿武隈山間版)

福島県農業試験場冷害試験地・平成8～10年度春夏作試験成績概要

1 部門名 水稲－水稲－形態・生育相収量構成要素 01-01-05260000

2 要 旨

(1)阿武隈山間と会津山沿いの収量差はa当たり約20kgあり、内8kgは気象要因に依存していると推定される。このため阿武隈山間の目標収量は、会津山沿いよりa当たり約10kg低く設定する方が実用的である。また、阿武隈山間での栽培に際し、特に注意する点は、栽植密度を24.8株/㎡以上の密植とし初期生育を確保後、過剰生育を抑えいもち病を徹底防除し、登熟歩合を80%以上とする事である。

(2)収量45～49kg/aの場合、移植後1ヶ月の草丈が30cm前後、茎数が200～250本/㎡、SPAD値40前後。幼穂形成期の草丈が60cm前後、茎数が400本/㎡前後、SPAD値40前後。成熟期の稈長が60～70cm、穂数が350本/㎡、籾数が2.6万粒/㎡前後、登熟歩合85%以上、千粒重22.0以上。

(3)収量50～59kg/aの場合、移植後1ヶ月の草丈が40cm前後、茎数が250本/㎡前後、SPAD値40前後。幼穂形成期の草丈が60cm前後、茎数が400～450本/㎡、SPAD値40前後、成熟期の稈長が60～70cm、穂数が380本/㎡前後、籾数が3.0万粒/㎡前後、登熟歩合が80%以上、千粒重22.0以上。